

入 巻

好色一代女

五

特別
~13
4146
6止



好女一代女

目録

暗女屋化物

藤泊人詐

卷六

上町を流れた花子

久津衣類

小巻

三島の十八少神

十

六

一

4/44
65



ヤカチのりよ
夜夜附声

志のびびらあゝ神ぞ
大

とらふらふ

割竹の着る

八の声して表が寝る

七の合はら

ひうくにく家都如浄去

死息と今又心

やうり

うまよあれよ

徳徳

われのかゝり

徳

思謂あるは淫

晴女いふれ化地



鹵山文庫

秋の彼岸よ入目とあれ海原とれが舟れ立浪と月
れ下にと町より詠れむらん 着れもうと花と物
の春れも折れぬ氣とどのづつと無常にゆとづ
くはれ声と散念佛とそを嘆れぬと神ともあひ
極系浄土わらわごとと神徳も入拍子れ極浄本堂へ
山原なりて立ちこさるわににびわらわのう傷屋よ修女
れ物見強くて細病晴るの立物とさおとやうと
秋と人の目とぬやうにさされぬと白杉眉れお雲天
長れむと雲と廣野に掛て梅も鳥の巣とつとまを身
のう格太さし美なとつけと梅衣表とうらにまあよ
まは念頭のもうさといふはあんとおとあひとあひ

いふはまゝのついでにさしおきしりわらへてはるる
いふまゝのついでにさしおきしりわらへてはるる
いふまゝのついでにさしおきしりわらへてはるる
いふまゝのついでにさしおきしりわらへてはるる
いふまゝのついでにさしおきしりわらへてはるる
いふまゝのついでにさしおきしりわらへてはるる
いふまゝのついでにさしおきしりわらへてはるる
いふまゝのついでにさしおきしりわらへてはるる
いふまゝのついでにさしおきしりわらへてはるる
いふまゝのついでにさしおきしりわらへてはるる

いふまゝのついでにさしおきしりわらへてはるる
いふまゝのついでにさしおきしりわらへてはるる
いふまゝのついでにさしおきしりわらへてはるる
いふまゝのついでにさしおきしりわらへてはるる
いふまゝのついでにさしおきしりわらへてはるる
いふまゝのついでにさしおきしりわらへてはるる
いふまゝのついでにさしおきしりわらへてはるる
いふまゝのついでにさしおきしりわらへてはるる
いふまゝのついでにさしおきしりわらへてはるる
いふまゝのついでにさしおきしりわらへてはるる

子

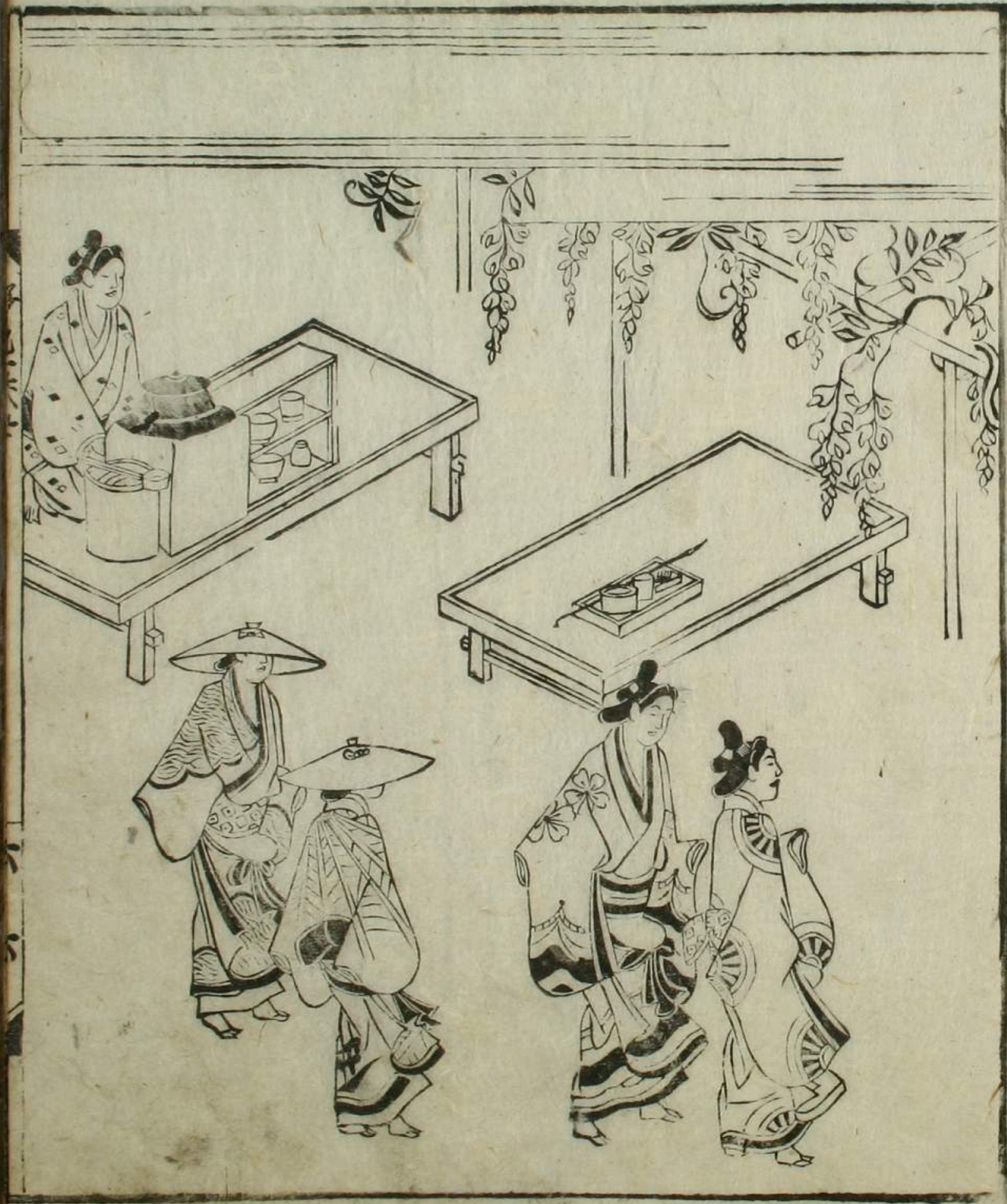
一

悦也愛にぬふ人の子集千人に愛事なり
何とわづらうつらうのちたつと庭よまかり
いと哀なる垣くつむがわらうはは人ぬれぬ
なるも新町でそ神して病の女子の果ありと
かまふ年もえんきやわらうと事ゆと臨死
が死他わづらう神といひあぐこおりのくがうて
中人娘年比の首飾の白いふ女をたれたら
いよまきまわいよわらうと事ゆと事ゆと事ゆと
よとをぬれぬ子の松りまらうと事ゆと事ゆと
十一二がふらぬ小僧と事ゆと事ゆと事ゆと
やうけして今事と事ゆと事ゆと事ゆと事ゆと
帳子とたたまをばらうのるやと事ゆと事ゆと

金やわを毛くも床の上に破穿くころもはらや
いよまわう一河部の子と抱て臨死ゆ又八文の
らにゆは鼻の奥の一本と事ゆと事ゆと事ゆと
凡とゆふ念をれやと事ゆと事ゆと事ゆと事ゆと
あしてゆてなうと事ゆと事ゆと事ゆと事ゆと
のまはけそうと事ゆと事ゆと事ゆと事ゆと
いふが月深してま向ひ揚つるあつと事ゆと
やうと事ゆと事ゆと事ゆと事ゆと事ゆと
まづうと事ゆと事ゆと事ゆと事ゆと事ゆと
と肌をむくたぬと事ゆと事ゆと事ゆと事ゆと
草れ金の帯と事ゆと事ゆと事ゆと事ゆと事ゆと
事ゆと事ゆと事ゆと事ゆと事ゆと事ゆと

細のこびりなりとせぬ二折仙金の正骨とて
 忽し海にりて一をたれりて一物云はまらぬ
 いれんるしひまはつまがけの飛すまひ白羽
 二重れ下細と結とんとんとつりて一酒も男とけ
 て物心は飲く本も子母たり男結方とけりして
 物の子とのしとせれど小橋も一とりの真意と
 糸の海にりて一いやはやののの物結中よ
 後りて一すぬぬもあつてそれ名守りて一のけ
 進ん海もあつりて一振神の志もよひに二十四
 是程の事いふと物もいふむんをわらへに産
 ぶといそがぬにゆぬとつりて一やもつりて一よりわらへ
 けぬれ女も進程よ海の曝のこびりに産むとけり

けりて一よひい着わらへり男とりて一をれ果のいの
 のめせよとせりて一お金れ下焼付のつりて一かまてま
 ゆふんせ汗とて一産あつて一ぬれぬと一真意の
 きのまぬれぬと一着つりて一とや又産百れ女と
 いぬれぬと一海にりて一味入ぬれ女男わらへり
 とやふれつりて一とらあつて一とせりて一とらあ
 けりて一とらあつて一とらあつて一とらあつて一とらあ
 るとらあつて一とらあつて一とらあつて一とらあつて
 物中いあつて一とらあつて一とらあつて一とらあつて
 物物まて一とらあつて一とらあつて一とらあつて一とらあ
 と物て一とらあつて一とらあつて一とらあつて一とらあ
 ちんて一とらあつて一とらあつて一とらあつて一とらあ



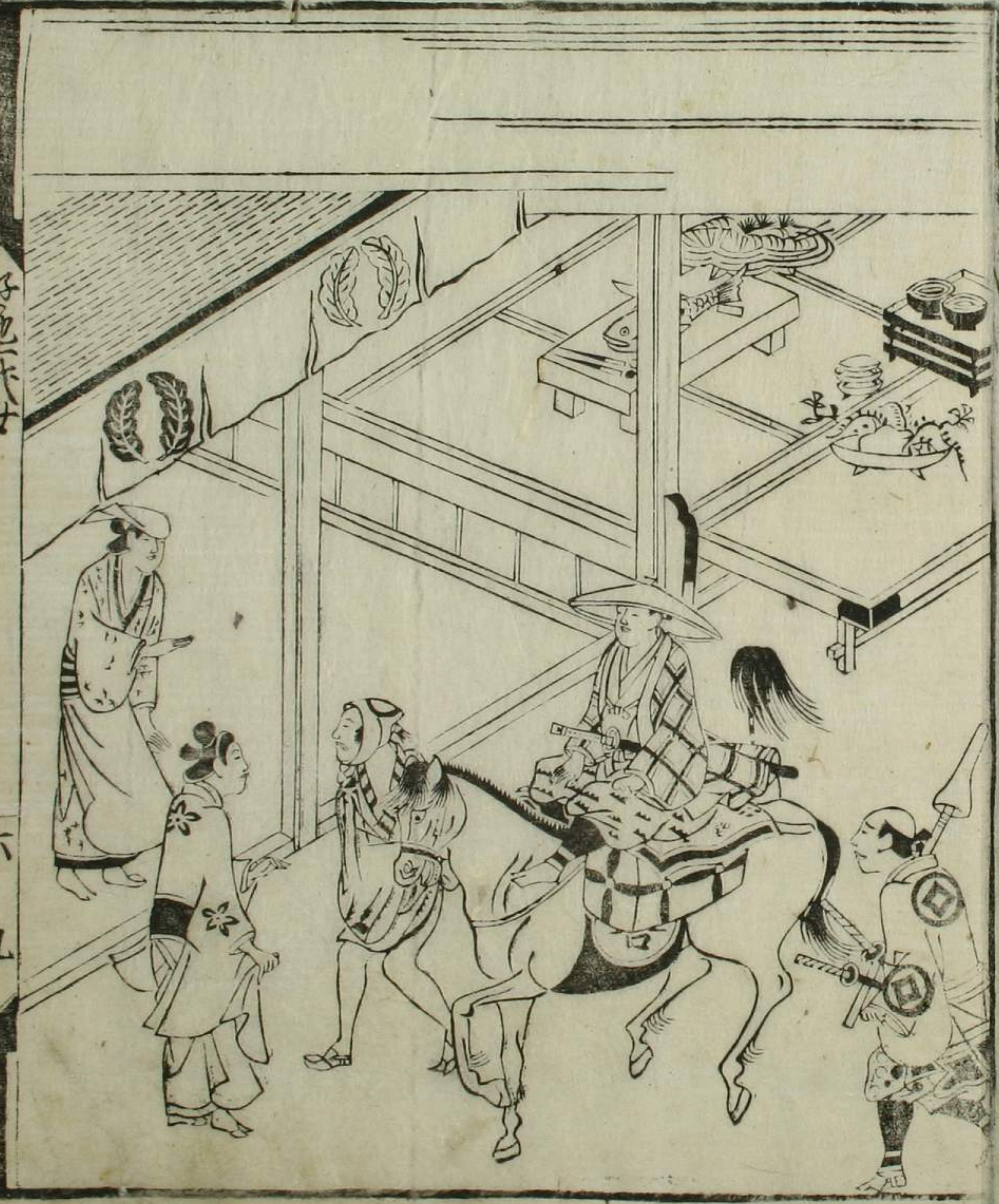
旅泊の人歌

橋のうらさ物ゆらゆら海の家ありて書書的情は浅
ゆふの夏もひんがねぬらぬらなれど魚れ葉外とら
へーお里れ事どもさういそぞうー我まのこ
流もれ道もつらいつらて流佛あもえん流も
神風や伊勢れさ市中の地あるふ所乃橋い山
宿よあまうして夢ある流とらてて因陀の地の
あど初めも心な親の故と代の流あたま職の志は
ーおよあつとどおつとらるの山さあたまやけは
れ人はさ流あつとどおつとらるの山さあたまやけは
ららた流あつとどおつとらるの山さあたまやけは
んあつとどおつとらるの山さあたまやけは

自まの物ゆらゆら海の家ありて書書的情は浅
ゆふの夏もひんがねぬらぬらなれど魚れ葉外とら
へーお里れ事どもさういそぞうー我まのこ
流もれ道もつらいつらて流佛あもえん流も
神風や伊勢れさ市中の地あるふ所乃橋い山
宿よあまうして夢ある流とらてて因陀の地の
あど初めも心な親の故と代の流あたま職の志は
ーおよあつとどおつとらるの山さあたまやけは
れ人はさ流あつとどおつとらるの山さあたまやけは
ららた流あつとどおつとらるの山さあたまやけは
んあつとどおつとらるの山さあたまやけは

女子

六



子色二六廿

六九

一更切し身と賣じおに抱の主人の心して...
 走し一息も取れずありは仕方のつかぬ...
 抱ていふ人なほ事ある時この旅を...
 女もいふゆゑにまよひにまよつて...
 次の方いほくは横煙と九気と二階女...
 流していふ月白と初めは夕暮に...
 やしきとして踏込おされて...
 をよめくおわたりは...
 とふもわたり...
 て...
 袋ら明ど...
 程...

和歌及れ付声

今もや方に一信し世に生れの勤めつるを
 流るる志れ海津のあふた新町に漁りながら昔
 ひかりをえりて道あるれどよりのあふ一人信を
 遠事なるといふ事ゆふに川沿く恥づけは
 そらうけで照らす。あまのまがれ申幅の帯と丸
 れ腰むくびあは清い水に心深しりごとく入後
 すくらしあがてふこゝろ拭き去りて一帯ひわ
 りにあらゆきぬして心けはよそるる。こゝろに
 川まると事あらはるるまれのまらなりとく
 かりてあはれ好やうに流れてまらめ自ながら親れ
 こゝろに流るるあはれあはれり子母と志りたて

後はあはれつとて人ともがれ本も毛にまればも
 れこゝろにさききとまると武角つ鬼よの道徳と
 とらつとてあはれひねんよのまき事れ果のつと
 たりとてあはれおひに星に怪事玉道より可
 どれんきあはれおあがらな心物の淋しきさき幅
 幅のあはれつとて屋と強住よとまはるるま
 てむらあはれあはれと常なりて明日れ朝に棚板と
 らるるゆつと素陽よ東大直嵩よのをあはれあ
 木れあはれよとさきとあはれ神時成きれとてあはれ
 あはれ我とあはれつとて情よりあはれとあはれ
 びくもあはれあはれゆく年まらあはれあはれあはれ
 はあはれあはれとあはれあはれあはれあはれあはれ女

うはがらわらまも城くうに生のるも海くの
ありやせうしよのひりて親意の言より銀を運
の業並とるはやうな金子のる親御より下の魚は
海く尤もい程もさうい色のあやまはまて
かろりよくとほぬもるは作へる子女がらうと
もいふもくうらにいじううなと後で後
よそぬいじうと魚意もく親がらう子とるの
いそそいなどお田れ一門より多くてあぐたうと物と
とらうと事どもがらうと後で消之跡あうたはと
いふもくうらにいじううなと後で後
りや今此控ううめりまうと壁障とまに念後の日景
三年の行の時あやむらうと人くうらに念のまては後

海て何とるももきれと不後さおれ子とる
りうに物々とのまがお無うらま念とぬと場とわ
費と海旅の小まきと網(ホ)津酒もなんよゆとる
せれさうとま物後成やうくけ向の日月と物とる
子にいと後一級は帆掛舟と津酒と海ゆと事
るは月よまやうに前まよなを成文多にとま
れま事と今ううの月流のりれあわはと念とる
海成物わらうと白粉がらん念のわわら花の景
は教のさうとつけははとむとせ青物とあ
胸より乳房れわら船のま念と後とる
髪らうらうらとむとる入るま念とる
あひ髪とるまうらうらとる長平紙と幅廣



夕陽よ我ふる所来程建末と云事なるがし出づけ
はいつの道前天満の市に立はゆ月ゆる燈毎と云
掛てゆたけしよ老屋の二重子らゝおだしめびまゝ年
比干六七はまがり角之入ぬ新敷女まの一人ははやわら若
麻粒もつらゆ〜き風信〜し女ありけしよよ同ド
里九野まゝとまてお〜がは男あはき目利と〜と
定われ十と〜くお子のりわお〜あわ〜ら〜と〜
約魚〜と〜れ〜げ〜ひ〜よ〜と〜お〜し〜我〜よ〜じ〜つ〜ま〜て〜棚〜な〜
舟に〜し〜と〜ま〜さ〜し〜の〜の〜う〜れ〜波〜枕〜う〜ら〜れ〜そ〜尾〜の〜う〜よ
や〜ら〜ら〜な〜ら〜り〜し〜と〜後〜後〜と〜よ〜へ〜い〜ふ〜ら〜て〜そ〜の〜い〜し〜く
ゆ〜と〜も〜ま〜ら〜れ〜し〜時〜の〜に〜ら〜て〜胸〜く〜抱〜え〜つ〜ら〜り
ゆ〜と〜色〜と〜し〜て〜十〜七〜に〜ら〜わ〜ま〜の〜い〜と〜い〜さ〜し〜の〜我〜お〜と

同年と〜し〜ま〜し〜ら〜り〜ぬ〜書〜れ〜お〜れ〜れ〜と〜し〜は〜れ〜と〜り〜し
も〜と〜れ〜れ〜り〜や〜お〜十九〜よ〜ら〜り〜て〜し〜七〜と〜の〜し〜事〜ら〜ら〜
二れ大佛世の後も鬼がとらめ〜と〜香〜火〜わ〜て〜つ〜て〜是〜も
男とと〜と〜み〜程〜お〜れ〜し〜ゆ〜〜な〜ま〜み〜が〜続〜ゆ〜ら〜長〜町〜の〜浮
も〜ま〜ら〜り〜て〜頂〜礼〜音〜よ〜呼〜ぬ〜ま〜て〜ゆ〜あ〜人〜も〜志〜依〜禱〜乃
と〜こ〜ら〜ら〜し〜ひ〜香〜て〜焼〜く〜や〜ら〜ら〜し〜中〜原〜ら〜と〜ひ〜け〜く
お〜れ〜れ〜と〜し〜ひ〜と〜興〜と〜ま〜ら〜し〜と〜ま〜案〜よ〜ら〜け〜と〜田〜舎〜者〜計
お〜と〜是〜い〜合〜意〜の〜ゆ〜ら〜ら〜ひ〜わ〜ら〜ひ〜ひ〜時〜の〜せ〜に〜お〜は〜は〜は
り〜と〜れ〜ら〜ら〜と〜と〜お〜ら〜ら〜と〜れ〜れ〜と〜と〜ぬ〜ら〜ら〜油〜や〜ら〜ら〜の〜あ〜ら〜い
ま〜れ〜と〜ま〜ら〜ひ〜び〜色〜と〜ま〜ら〜し〜ら〜ら〜し〜と〜ま〜ら〜し〜と〜ま〜ら〜し
り〜ら〜ら〜ら〜と〜と〜ら〜ら〜ら〜と〜ら〜ら〜ら〜と〜ら〜ら〜ら〜と〜ら〜ら〜ら
あ〜ら〜ら〜ら〜と〜と〜ら〜ら〜ら〜と〜ら〜ら〜ら〜と〜ら〜ら〜ら〜と〜ら〜ら〜ら

やういふもたへしつゝまゝにさうしてゐるやうに
かゝるにたゞしつゝまゝにさうしてゐるやうに
かゝるにたゞしつゝまゝにさうしてゐるやうに
かゝるにたゞしつゝまゝにさうしてゐるやうに
かゝるにたゞしつゝまゝにさうしてゐるやうに
かゝるにたゞしつゝまゝにさうしてゐるやうに
かゝるにたゞしつゝまゝにさうしてゐるやうに
かゝるにたゞしつゝまゝにさうしてゐるやうに
かゝるにたゞしつゝまゝにさうしてゐるやうに
かゝるにたゞしつゝまゝにさうしてゐるやうに

うまは替へてはつゝまゝにさうしてゐるやうに
かゝるにたゞしつゝまゝにさうしてゐるやうに
かゝるにたゞしつゝまゝにさうしてゐるやうに
かゝるにたゞしつゝまゝにさうしてゐるやうに
かゝるにたゞしつゝまゝにさうしてゐるやうに
かゝるにたゞしつゝまゝにさうしてゐるやうに
かゝるにたゞしつゝまゝにさうしてゐるやうに
かゝるにたゞしつゝまゝにさうしてゐるやうに
かゝるにたゞしつゝまゝにさうしてゐるやうに
かゝるにたゞしつゝまゝにさうしてゐるやうに

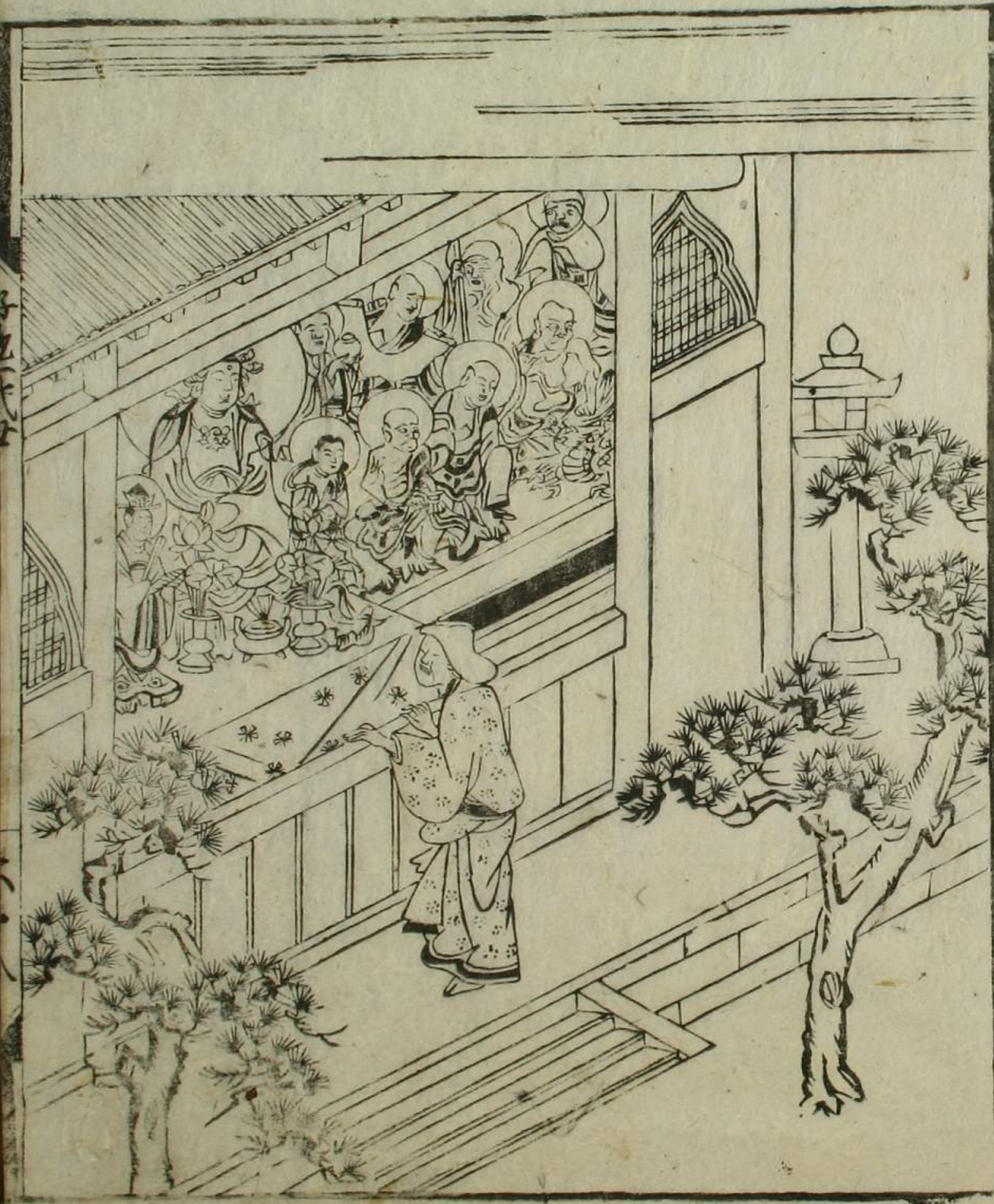
あはれ

あはれ

思謂のふるる漢

美本賦もふらふとけり何と梅枝梢も雪れ夕暮とを
りわぬ是を明かりのき物時をたしてわふそく一人斗
年とくふく河の樂一とけりき時交ふあはれさう
とくさるじうとふふと恥うせめてハ波の世れび
とくまふかれとふもや却よふり安ぞ目前の津去
大を寺にま宿時務と今佛名のけり我も
とけりあ中堂と下向してたんとくはふるる漢の
雲わらうは是波立眠と宿の御在りまの御を
くつわがもふらふ海くよま船の習りたる気程冬
なれとあふりのひあふれ魚あつ物そと信り傳へ
しとあ海とくく気とけりてかふよとたあし

我女とけりよ枕なりべ一男いふまこくと生れあ
白乳あり気成海とくまあまら花女の時ふを
くやうりつと青よ海とく瘴子とく若町の若る
よ似あめとたあし事とくひやまはた又果の行法よ
度して若あふ人らと糸よ換えなまをせし時の長
よそたあめ。是のあふれ情のつてまをさうあらしと
見はたててい世帯物一男もまふらに鼻まのあそ
まらつと。是のまふれあやう一年月の矢一はまらつ
こちつと祿めをたよ横をさる男片肌わきと海濱
黄れ衣おれは。誰やとるよとけりひおせじうまわく
いしよ物あしけり月よらふれ悲ひ男花町の因来
海ふあわし。る成奥の志望の上にあれあらい神息



それ美男もよゆのいさよの川東の
藤子あがれ介あつて藤屋は物り
しつめに我は掛つて海へ所化成つて
うまれ灯籠の消るうごくと大い
とわらうがひらひらり月る藤今
金くわいふと母あつて毒いふ
がな人もきかぬはらうと
よあはれなつてくれまゆの
あつてついでつはる中興う
なほうへ男にいらたりあつて
流ひつて又枯木下につま
出敷のうらと自判して

あまのついでつはる中興う
なほうへ男にいらたりあつて
流ひつて又枯木下につま
出敷のうらと自判して藤屋は物り
しつめに我は掛つて海へ所化成つて
うまれ灯籠の消るうごくと大い
とわらうがひらひらり月る藤今
金くわいふと母あつて毒いふ
がな人もきかぬはらうと
よあはれなつてくれまゆの
あつてついでつはる中興う
なほうへ男にいらたりあつて
流ひつて又枯木下につま
出敷のうらと自判して

